

就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業

更新講習型プログラム 委託事業成果報告書

2021年3月

兵庫教育大学

目次

1. 事業の概要.....	2
1.1 目的・成果目標.....	2
1.2 取り組み方法（本事業の特色）	2
1.3 事業のスケジュール	3
2. 講習プログラムの概要.....	5
2.1 講習の全体像とスケジュール.....	5
2.2 教員免許状更新講習	6
2.3 教員採用試験・教職サポート講習	9
3. 受講状況.....	11
3.1 受講の実態.....	11
3.2 受講者による講習の評価.....	11
4. 本事業の成果と課題	14
参考資料.....	15

1. 事業の概要

1.1 目的・成果目標

本事業は、主に就職氷河期世代における免許が休眠状態にある者を対象に、「オンライン型の教員免許状更新講習」および「教員採用試験・教職サポート講習」（以下、サポート講習と略称）を開発・実施するものである。本事業の目的は次の3つである。

- ①就職氷河期世代が学校現場において活躍する場を広げること。
- ②年々採用倍率が低下している教員採用試験の受験者を増加させること。
- ③若手教員が増加している学校現場において、社会人としての経験を積んだ多様な者を教員として輩出すること。

これらのように、就職氷河期世代を対象としたリカレント教育を通して、教員採用率を増加させるとともに、多様な教員を学校現場に輩出することで、教員の質を改善することが本事業の大きな目的となっている。

より具体的な本事業の成果目標は、表1-1-1に示す6つである。表1-1-1中の上2つの項目で示しているように、受講者のニーズに対応できる幅広い更新講習型プログラムを6パッケージ開発するとともに、3つの教員採用試験サポート講習を開講することが本事業の「開発」に関する成果目標である。なお、下4つの成果目標（受講者数、受講完了率、教員採用試験合格率、教員就職率）は、受講者側の状況や社会動向の要因に大きく影響を受けるため、必ずしも達成すべき目標として設定しているわけではないことに留意しておきたい。

表1-1-1 本事業の成果目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○更新講習型プログラム（小学校・中学校を中心とし、幼稚園、高等学校、特別支援学校も含む）を「6パッケージ」、「16講座」開発する。○教員採用試験サポート講習は「3講座」開講する。○更新講習型プログラムの受講者の目標値は「100人」とする。○更新講習型プログラムの受講完了率の目標値は「80%」とする。○受講完了者における教員採用試験合格率の目標値は「50%」とする。○受講完了者における臨時的任用を含む教員就職率の目標値は「80%」とする。 |
|---|

1.2 取り組み方法（本事業の特色）

本事業は、就職氷河期世代を対象に、オンライン型の教員免許状更新講習およびサポート講習を提供するものである。本事業の特色は次の3点にある。

- ①免許状更新講習のオンライン化
- ②受講者の幅広いニーズに対応するパッケージの開発
- ③兵庫教育大学教員養成スタンダードを用いた研修の設計

1点目は、免許状更新講習のオンライン化である。本事業では、オンライン型の教員免許状更新講習を提供するために、対面式の免許状更新講習の録画・編集による動画コンテンツの作成を行った。また、動画の視聴やレポートの提出といった一連の学習管理のシステムとして、「Cloud Campus」を用いた。

2点目は、受講者の幅広いニーズに対応するパッケージの開発である。本事業では、受講者の有する免許状や、求めるニーズが多様であることを想定し、(成果目標の6つより1つ多い)7つのパッケージを開発した。小学校・中学校を中心としながらも、幼稚園、高等学校、特別支援学校も含む幅広い学校種に応じたパッケージとなっている。また、授業づくりや子ども理解、生徒指導など、受講者の求める力量形成のニーズに沿うようなパッケージを開発した(詳細は本報告書の「2.2 教員免許状更新講習」を参照)。

3点目は、兵庫教育大学教員養成スタンダードを用いた研修の設計である。本事業の対象者である就職氷河期世代の免許が休眠状態にある者は、大学等の教員養成課程を修了してから時間が空いていることや、長期間にわたって学校(教育現場)から離れていることが想定される。そのため、教員に求められる資質・能力について十分な理解を持っていないことが想定される。そこで、兵庫教育大学教員養成スタンダード(以下、スタンダードと略称)を用いて、教員に求められる資質・能力について自己分析をするプロセスを取り入れた。

これらの特色を持つ本事業は、兵庫教育大学の教員養成・研修高度化センターが主体となって実施した。主な実施メンバーは次の通りである。

所属部署・職名	氏名	役割分担
教員養成・研修高度化センター		
センター長	吉水 裕也	総括
准教授	泉村 靖治	教員採用試験サポート講習の企画・実施
助教	阪上 弘彬	教員養成の高度化に係る企画・実施
助教	徳島 祐彌	教員養成の高度化に係る企画・実施
教授	秋光 恵子	免許状更新講習の企画・実施
准教授	掛川 淳一	免許状更新講習の企画・実施
助教	澤山 郁夫	オンラインシステム導入の企画・実施

1.3 事業のスケジュール

本事業の実施スケジュールは表1-3-1の通りである。大まかな流れとしては、事業が開始した2020年4月から7月にかけて、開講科目の決定やオンライン講習のシステムの選定など、プログラムの策定を行った。7月～11月にかけて、対面式の免許状更新講習の録画・編集を行った。並行して、サポート講習の資料作成を進めた。11月から受講者の募集を開始し、12月にかけて事前学習、2021年1月から免許状更新講習を提供した。その後、1月から3月にかけてサポート講習(ベーシック、プラクティス、アドバンス)を提供した。

表 1-3-1 本事業の実施スケジュール

時期	活動内容
2020年	プログラムの広報活動の開始
4月	兵庫教育大学のウェブサイト広報開始 免許状更新講習（オンデマンド）の開講スケジュールの調整
5月	
6月	
7月	（対面式の免許状更新講習開始） 免許状更新講習オンデマンド講義用動画の撮影（～11月） サポート講習（ベーシック講座・オンデマンド）の撮影（～10月） 説明会@神戸
8月	
9月	令和2年度オンライン講座による免許状更新講習の開設申請 サポート講習（ベーシック講座・オンデマンド）の編集（～11月） 説明会@神戸，東京
10月	受講生募集の告知
11月	受講生募集の開始（11月16日～11月20日） 受講生：教員養成スタンダードに基づく自己分析
12月	免許状更新講習オンデマンド講義の受講の決定
2021年	免許状更新講習オンデマンド講義の開始（1月5日～1月22日）
1月	サポート講習（ベーシック講座・オンデマンド）の開始（1月5日～1月22日） 令和3年度免許状更新講習開設申請
2月	サポート講習（プラクティス講座・中継）
3月	サポート講習（アドバンス講座・中継）
4月	令和3年度免許状更新講習募集 サポート講習
5月	兵庫県，神戸市等受験者向け学内教員採用試験説明会 サポート講習
6月	サポート講習
7月	令和3年度免許状更新講習開始 サポート講習 （7月以降，教員採用試験受験率および合格率の調査）

※2021年4月以降のスケジュールは予定である。

2. 講習プログラムの概要

2.1 講習の全体像とスケジュール

本講習プログラムでは、小・中学校を中心としたオンライン型免許状更新講習及びサポート講習をパッケージとして開講した（下記の表2-1-1）。

表2-1-1 講習プログラムの一覧

教員免許状更新講習	サポート講習
① 〈全校種（特に小中）〉 バランス型	① ベーシック（オンライン）
② 〈小〉 授業力アップ型	② プラクティス（対面（一部オンライン））
③ 〈小〉 新しい時代の授業づくり型	③ アドバンス（対面）
④ 〈小〉 多様な子ども理解型	
⑤ 〈中高〉 生徒指導・生徒理解型	
⑥ 〈幼〉 幼稚園特化型	
⑦ 〈全校種〉 特別支援教育重点型	
①～⑦の一つを選択し受講（必須）	①は必須。②③は希望者のみ受講可能

両講習は、本学の特色である教員養成スタンダードの5領域「学び続ける教師，教師としての基本的素養，子ども理解に基づく学級経営・生徒指導，教科等の指導，連携・協働」を基盤としている点に特徴があり，教師に求められる資質・能力を確実に修得できる内容である。

表2-1-2は講習プログラムの申し込みから受講までの主なスケジュールを示したものである。なお事前相談会は申し込み者がなかったため，開催されなかった。

表2-1-2 講習プログラムの申し込みから受講までのスケジュール

時期	活動内容
2020年 11月	事前相談会への申し込み 事前相談会受講 プログラム受講申し込み 教員養成スタンダードに基づく自己評価の実施
12月	受講料納付 受講決定通知の送付
2021年 1月	教員免許状更新講習受講（パッケージを1つ選択） サポート講習（ベーシック）受講 サポート講習（プラクティスおよびアドバンス）申し込み
2月	サポート講習（プラクティス）受講
3月	サポート講習（アドバンス）受講 教員免許状更新に係る履修認定証明書の送付

2.2 教員免許状更新講習

教員免許状更新講習では、全学校種に対応すること、今日の学校教育において求められる教師の力量形成に対応することを念頭に入れ、①～⑦のパッケージを開発した。各パッケージは、必修領域1講座、選択必修領域1講座、選択領域3講座の5講座（合計30時間）から構成した。幼稚園特化型の⑥を除き、必修領域講座はどのパッケージを選択しても同じものを学修することになるが、選択必修領域講座および選択領域講座において各パッケージの型に適した講座が配置されている。

例えば、表2-2-1は幼稚園を除く全学校種を対象に、バランスの取れた力量形成を目指したパッケージ①の講座一覧である。選択領域においては、児童・生徒理解に重点をおく「外国人児童生徒等教育の基礎—多文化共生のための学校・教室づくり」、授業力向上を目指した「参加型学習により子どもたちの意思決定、目標設定の力を育てる：ライフスキルの視点から」、学級経営に関する「子どもに対する教師の見方をふりかえる—学級経営の充実のために—」の異なる力量形成を目指した3つの講座を配置した。

表2-2-1 パッケージ①バランス型の講座一覧

区分	講習名および内容	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情—学校知の再構成— 「①国の教育政策や世界の教育の動向，②教員としてのも子ども観，教育観等についての省察，③子どもの発達に関する脳科学，心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。），子どもの生活の変化を踏まえた課題」	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領（総論・総則） 「本講義では、「学校における働き方改革」や「学校と地域の連携協働」など近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領（総論）について概説し，グループ演習等を通じて理解を深めます。学習指導要領に関しては，総則に該当する部分のみを担当いたします。」	押田 貴久
選択領域	外国人児童生徒等教育の基礎—多文化共生のための学校・教室づくり 「日本に住む人々の多国籍化，多文化化が進むに連れて，学校現場では，複数の言語的・文化的背景をもつ児童生徒，日本語指導を必要とする児童生徒が増え続けており，指導体制の整備が急務となっています。本講習では，多文化化する社会に生きる子どもたちに求められる教育や日本語指導といった，外国人児童生徒等教育の基礎を学びます。」	岡崎 渉
	参加型学習により子どもたちの意思決定，目標設定の力を育てる：ライフスキルの視点から 「対人関係の課題に関わる意志決定スキル，及び運動に関わる	西岡 伸紀

	<p>目標設定スキルについて，育成のための考え方や進め方を理解し，演習を通して，育成のための指導について理解を深める。さらに，日常生活における意思決定や目標設定に関する課題への適用について見通しをもつ。」</p>	
	<p>子どもに対する教師の見方をふりかえるー学級経営の充実のためにー</p> <p>「一人一人の児童生徒と学級全体の理解は児童生徒の成長を促す学級経営の基盤であり，いじめや不登校等の問題の未然防止や早期発見にも不可欠です。児童生徒や学級の理解には教師自身の物事の見方・捉え方も影響していますが，それに気づくのは容易ではありません。そこでこの講習では，教師が児童生徒と学級に与える影響を心理学的な側面から学び，自身のふり返りを通して，より充実した学級経営に役立つ知識の獲得を目指します。」</p>	<p>秋光 恵子</p>

一方表2-2-2に示すパッケージ③は，小学校の授業づくりにかかわる力量形成に特化したものである。具体的には，特別の教科となった道徳科には選択必修領域の「道徳科の時代の道徳教育・道徳授業の在り方と効果的な指導法の実際」，外国語科，とくに英語に関しては選択領域の「簡単なICT教材の授業活用ー英語表現を用いてー」および「ALTとのティーム・ティーチングで行う小学校外国語活動・外国語科の授業づくり」で対応できるように講座を配置した。またICTなどの活用といった教育方法を重視した授業づくりを想定して，「メディアを活用した国語科授業について考える」ならびに「簡単なICT教材の授業活用ー英語表現を用いてー」の2講座を設定した。

表2-2-2 パッケージ③新しい時代の授業づくり型の講座一覧

区分	講習名および内容	担当教員
必修領域	<p>学校づくりに活かす教育の最新事情ー学校知の再構成ー</p> <p>「①国の教育政策や世界の教育の動向，②教員としての子ども観，教育観等についての省察，③子どもの発達に関する脳科学，心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。），子どもの生活の変化を踏まえた課題」</p>	<p>安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英</p>
選択必修領域	<p>道徳科の時代の道徳教育・道徳授業の在り方と効果的な指導法の実際</p> <p>「○学習指導要領を踏まえ，道徳科における目標や内容について解説するとともに，今後の学校教育の在り方や授業づくりの基礎について学習する。○道徳科授業における多様で効果的な指導方法について学習するとともに，魅力的な教材を選択</p>	<p>淀澤 勝治</p>

	して作成した各自の指導案等の発表や討論を通してその検討を行う。」	
選択領域	メディアを活用した国語科授業について考える 「写真、絵、広告、CM、動画を活用した国語科授業の方法について、実践的に学ぶ講義・演習を行います。教科書教材に基づくものや、その内容を飛び越えるものなど、受講生の方に実際に言語活動を行っていただき、メディアを活用した国語科授業がアクティブ・ラーニング化していくことを体感してもらうことがねらいです。ICT活用については直接的には扱いません。」	羽田 潤
	簡単なICT教材の授業活用－英語表現を用いて－ 「簡単に使えるICT教材について学び、ICT教材の授業活用の可能性について考察します。次に、パワーポイントで作成された教材等を用いて、1) 簡単な英語表現を学び(一部小学校「外国語」対応)、2) 教材作成方法を学んで、3) 独自の教材を作成し、4) 作成した教材で受講者対象に模擬実践を行います。」	川崎 由花 澤山 郁夫
	ALTとのティーム・ティーチングで行う小学校外国語活動・外国語科の授業づくり 「学級担任あるいは外国語専科教員などの小学校教員とALTが協同的に行う外国語活動や外国語科の授業づくりについて、理解を深めることを目的としています。外国語活動・外国語科の授業づくりについての基本的な理念と、ALTとの同僚性を育むうえでの留意点、授業で使用できる英語表現などについて講義を行うとともに、学年と単元を設定した模擬授業の演習を行います。」	和田あずさ GRADY CLARE ELIZABETH

表2-2-3も重点型のパッケージ⑦の講座一覧を示したものである。主に選択領域の3講座において、特別支援教育に関するものが設定された。

表2-2-3 パッケージ⑦特別支援教育重点型の講座一覧

区分	講習名および内容	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情－学校知の再構成－ 「①国の教育政策や世界の教育の動向、②教員としての子ども観、教育観等についての省察、③子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)、子どもの生活の変化を踏まえた課題」	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領(総論・総則)	押田 貴久

	「本講義では、「学校における働き方改革」や「学校と地域の連携協働」など近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領(総論)について概説し、グループ演習等を通じて理解を深めます。学習指導要領に関しては、総則に該当する部分のみを担当いたします。」	
選択領域	気になる行動を示す発達障害児に対する問題解決支援！ 「発達障害の子どもを含めた特別な教育的ニーズのある子どもたちが示す行動上の問題は、学校教育における喫緊の課題である。本講習では、友達を叩いてしまう、授業になかなか参加できないといった気になる行動を示す子どもの捉え方及び支援の方法・内容を紹介する。加えて、受講生自らの事例を取り上げ、支援計画づくりを行う演習を実施し、日々の実践につながる講座を目指したい。」	岡村 章司 井澤 信三
	特別支援教育基礎論（教育課程と自立活動の理解） 「特別支援教育における教育課程編成の原理と特徴について概説する。教育課程の編成や実際の指導において重要である自立活動に着目し、その理念及び成立の過程を理解する。それらを踏まえて、個別の指導計画作成の手続きの在り方について考察する。」	内海友加利
	肢体不自由児の教育課程・指導法 「①から④の内容について肢体不自由児を中心としながら、知的障害児・病弱児を包含しての講義を行う。①肢体不自由児教育と療育の歴史、②肢体不自由教育における教育課程と自立活動、③特別支援教育における諸計画と実態把握、④二次的問題の予防と社会資源の活用」	石倉 健二

なおその他のパッケージで設定された講座の内容については、巻末の参考資料「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業 実施要項」を参照してほしい。

2.3 教員採用試験・教職サポート講習

教員免許状更新講習が主に休眠状態にある受講者の免許状を復活させること、教員の力量の形成を目的にしているのに対して、教員採用試験・教職サポート講習（サポート講習）は教員免許状復活後に学校現場で勤務するためのサポート、具体的には教員採用試験に向けた対策や学習指導・生徒指導等について実践的に学ぶ機会の提供を目的とする。サポート講習は、以下の3つから構成される。

- 教員採用試験で課される試験の種類や各試験の対策方法について解説するベーシック
- 場面指導や模擬授業等についての講義やグループ演習を通して、教員採用試験対策だけではなく、教員として必要なスキルも学ぶプラクティス
- プラクティスで学んだことをもとに活用するアドバンス

ベーシックは、免許状更新講習と同じ期間（2021年1月5日～22日）に開講、オンライン（オンデマンド型）で実施した。内容については、教員採用試験で課される筆記試験、小論文、面接を中心に、教員として必要になる教育事情などについて、スライド資料などを用いて解説した。また一方的な講義・説明だけでなく、解説の合間に演習問題を設定した。

プラクティスは希望者のみを対象に、2021年2月13日に開講した。なお、当初の計画では対面を実施する予定であったが、本学が位置する兵庫県が1月14日～3月7日（解除は3月1日）までを緊急事態宣言の期間と指定したため、対面に加えてオンライン（同時双方向型）でも実施した。実施内容は「模擬面接」および「模擬授業」の2点であり、面接におけるやり取りおよび模擬授業について演習の形態で実施した。

アドバンスも希望者のみを対象に、2021年3月21日にオンラインで開講した。アドバンスでは、「模擬面接」および「模擬授業」に加えて、「小論文指導（添削を含む）」も実施した。

3. 受講状況

3.1 受講の実態

100人の募集人数に対して、最終的に4名の応募があった。4名中3名が中学校および高校の教員免許状を、1名が幼稚園の教員免許状を所持していた。教員免許状更新講習の選択状況としては、①が1名、⑤が2名、⑥が1名という結果になった。なおサポート講習は、ベーシックは4名全員、プラクティスは2名、アドバンスは1名が受講した。

3.2 受講者による講習の評価

今回のリカレント教育プログラムを受講した4人に対して、教員免許状更新講習およびサポート講習（ベーシック）受講後に、Cloud Campus上でアンケート調査を行った。以下、それぞれのアンケート結果について整理する。なお、アンケートはそれぞれ受講した講習に対して行っているものであるが、免許状更新講習全般に通じる結果や意見を見るために、ここではデータやコメントをまとめて示している。また、受講者のコメントについて、誤字脱字等の明らかな表記ミスについては執筆者が修正を加えている。

免許状更新講習については、各自が受講した講習について、「本講習の内容・方法についての総合的な評価」、「本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価」、「本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）について」という項目で、それぞれ4件法で回答を求めた。1人あたり5講習を受講しているため、4人で合計20の回答(回答率100.0%)がすべての質問に対して得られた。結果は、表3-2-1の通りである。この結果を見ると、講習の内容・方法・運営に関して概ね高い評価を得ていること、また講習を通して受講者が知識・技能を得たと自己評価していることが分かる。

それぞれの講習についてみて見ると、内容・方法についての総合的な評価（Q1）が高かった科目のコメントとしては、「問題提起と解決までがわかりやく組み立ててられており、短時間の学習ながら理解が深まる内容だったと感じている。また、各講義のまとめがきちんと行われており、反復学習に役立った。」などがあった。他方で、評価が低かった科目のコメントとしては、「・声が少し小さくて聞こえ辛かったです。・内容が少しわかり辛かったので、他サイトを検索してリサーチをしたり、現役教師に内容や現場の現状を教えていただく必要性がありました。」、「事例を踏まえ分かりやすかったが、オンラインのため隣同士などの話し合いができなかったので、オンライン用の講習になるともっと学びやすいと感じた」などがあった。これらの意見は、すべての科目で免許状更新講習のオンライン化にとって重要であると考えられる。

自身の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価（Q2）のコメントとしては、「自分が学生だった頃当たり前だったことが現在、当たり前ではなくなっているという現状がわかって勉強になった」、「具体的な対応の仕方がわかって大変参考になった」、「実践的な教授法の紹介や事例などがあったので参考になりました。」などがあった。

講習の運営面（Q3）についてのコメントとしては、「メールでの連絡が分かりやすかった。また、申し込みの仕方を電話で問い合わせた際、とても親切に対応してくれた。」など、対応の良さについての肯定的な意見が見られた。他方で、「講義の中で先生が指している場所が写らなかったので資料のどの部分の話をされているのかわかりづらい部分があった」、「スライドの

資料もダウンロードできればよかったですと思います。」、「質問内容が、教師で現場経験がある前提でしたので、答えづらかったです。（ユースケースがなかったです。）」など、改善点に関する意見も寄せられた。

また、「Q4. 本講習を受講しての感想等をご自由にお書きください。」の項目では、「わかりやすい説明で、深く理解することができた。今後、学んだことを生かしていきたいと感じている。」、「全体的な概要は理解することができました。」、「講師の先生方の話が分かりやすく聞きやすかった。話に引き込まれました。」など、免許状更新講習が受講者の学習につながっていることを示す意見がみられた。他方で、「全体的に理解するのは難しかったです。」、「講義の内容は大変有意義なものであったが、本来ならばやはりリアルに授業を受け様々な先生方のお話を生で伺ってディスカッションしてみたかったです。」「演習のあとに行う、周りの人との話し合いをオンライン受講している人にとっては、話す相手がいないので時間ももったいなく感じてしまった。」など、講義の難易度やディスカッション等の改善点に関する意見も寄せられた。

表3-2-1 免許状更新講習についての評価

Q1. 本講習の内容・方法についての総合的な評価			
よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
50.0%	35.0%	15.0%	0.0%
Q2. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価			
よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
55.0%	45.0%	0.0%	0.0%
Q3. 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）について			
よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
25.0%	65.0%	10.0%	0.0%

※回答はそれぞれが受講した講習別に行われているが、すべての回答を合計して分析している。

次に、サポート講習についての評価である。サポート講習は、既に実施が終了している全員必修の「ベーシック」についての評価を求めた。サポート講習について、「本講習の満足を教えてください。」という項目で、4件法で回答を求めた。受講者4人全員の回答（回答率100.0%）が得られた。結果は表3-2-2の通りである。この結果から、サポート講習に対して受講者が概ね満足していることが分かる。

「本講習の満足を教えてください。」のコメントとしては、「講習として内容がまとめられていてとても勉強になった。集団討論や集団面接、模擬授業に関しては、個人的に経験が不足しているので、実践的な学習が必要だと痛感している。これを機会に模擬授業や面接に対する対策にも取り組んでいきたい。」、「筆記試験の内容や小論文についての対策がもう少し充実していればよかったです。自治体によって求められる教育の方向性や目指しているものが異なり、各所教育振興基本計画をしっかりと調べる必要性を認識することができました。」など、サポート講習によって新たな学習意欲が喚起されていることを示すものが見られた。また、「今まで自己分析をあまり考

えずにいた為、今後の〔今後も：引用者〕自分を分析することで仕事や家庭で生かしていけたらと感じたため。」というように、自己分析の重要性についての認識を示すコメントも見られた。

表 3-2-2 サポート講習についての評価

Q2. 本講習の満足を教えてください。			
よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
25.0%	75.0%	0.0%	0.0%

以上のように、アンケートの結果では、講習に対して受講者が概ね満足している様子や、学習を深めている様子が見取れる。他方で、音声の問題や資料配布の要望、ディスカッションを取り入れる必要性など、今後の改善につながる意見もあった。

4. 本事業の成果と課題

本事業の成果としては、次の2点を挙げるができる。

1点目は、多様なニーズに対応しうる教員免許状更新講習のパッケージを開発したことである。先述のように、全学校種（幼稚園，小学校，中学校，高校，特別支援学校）に対応できること，バランス重視型および特化型（授業力，授業づくり，子ども理解，生徒指導・生徒理解，特別支援，幼稚園）のどちらにも対応できることを念頭に入れて、「7つのパッケージ」，「18講座」を設定した。これは本プログラム申請時に設定した成果目標である「6パッケージ」，「16講座」を上回るものである。

2点目は、講習プログラムの内容に対して、受講者からおおむね満足のいく評価が得られた点である。内容において多少理解しにくいという指摘が出ていたが、サポート講習においては受講者が求めている実践知に関する情報や気づきを提供できていたと考えられる。またこのような講習ができた背景には、本学の教員養成スタンダードを活用して、受講者および講師が受講時点で受講者の資質・能力を把握できていたこと、すべてではないがその結果に応じて受講者への助言等ができていたことがその一因にあると考えられる。

本事業の今後の課題としては、次の2点が考えられる。

1点目は、受講人数の少なさである。本事業では100名の受講者を想定していたが、実際には4名の受講という結果となった。その要因としては、募集および開講時期が他の採択大学と比較して遅く設定されていたこと、受講料が高いことなどが考えられる。今後も事業を継続するためには、受講者の確保は重要な課題であると考えられる。

2点目は、オンライン型の免許状更新講習およびサポート講習の内容の充実である。アンケート結果からは、受講者が概ね満足している様子がうかがえたものの、音声の問題や資料配布の要望、ディスカッションを取り入れる必要性などについては課題が残されている。本事業では、対面式の録画・編集によって動画コンテンツを作成したが、オンライン型の講習用に別個に撮影をするなど、コンテンツの質を高めることが必要になると考えられる。

参考資料

- 就職氷河期を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業 概要
- 就職氷河期世代を対象にした教職に関するリカレント教育プログラム事業 募集要項
- スタンダードを用いた自己分析シート

兵庫教育大学における就職氷河期を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業 概要

事前学習 (2020年11月～12月)

プログラムの受講料は減免措置あり

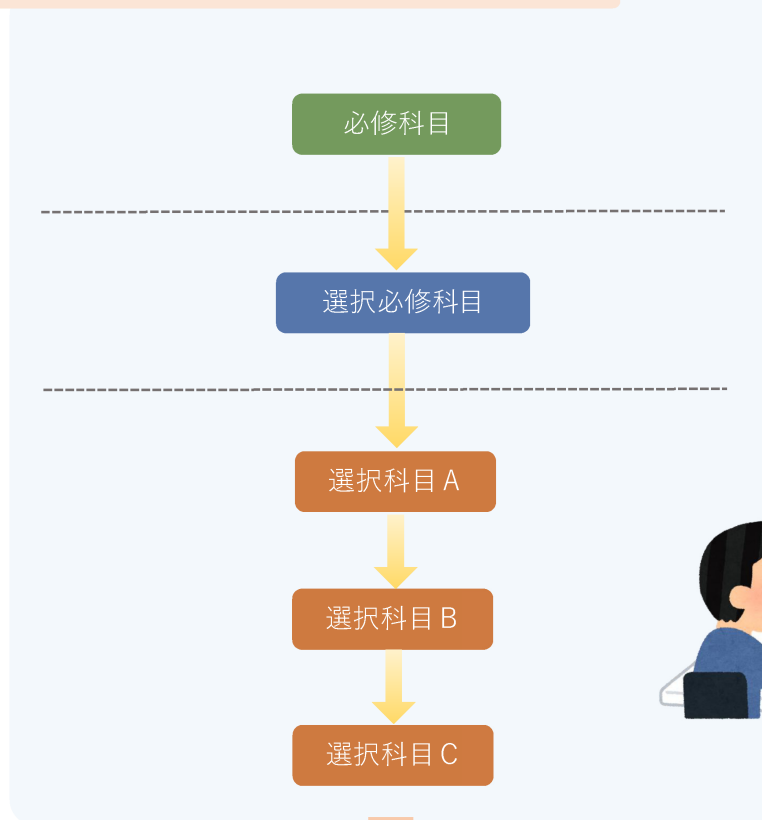
教員養成スタンダードに基づく自己分析

- 教員養成スタンダードを用いた「教員に必要な資質能力」の確認
- スタンダード（幼稚園版、小学校版、中学校版）を用いた自己評価、自己分析
- 自己分析に基づいた講座の選択



免許状更新講習 (2021年1月)

教員養成スタンダードを踏まえた免許状更新講習 (5講座の受講)



教員採用試験サポート講習 (2021年1月～6月)

教員養成スタンダードの中核「学び続ける教師」の資質能力の向上

ベーシック

- 文献での学び方
筆記試験に向けて
- 自己分析等①
面接試験に向けて
- 実践的探究①
模擬授業に向けて

プラクティス

- 自己分析等②
講義・グループ演習
：教育課題の整理等
- 実践的探究②
講義・グループ演習
：授業の基本・応用

アドバンス

- 自己分析等③
グループ演習
：教育課題の整理等
- 実践的探究③
グループ演習
：授業の基本・応用



教員採用試験 (2021年7月～8月)





就職氷河期世代を対象とした
教職に関するリカレント教育
プログラム事業
募集要項

1 目的

兵庫教育大学では、文部科学省から「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業」の委託をうけ、免許状更新講習をパッケージで提供するとともに、教員として勤務するために必要な知識・技能の習得をサポートするプログラムを開設しました。

多数の応募をお待ちしております。

2 プログラムの内容

就職氷河期世代の教員免許状が休眠状態にある方々を対象に、小・中学校を中心としたオンライン型免許状更新講習及び教員採用試験・教職サポート講習をパッケージとして開講します。

両講習は、本学の特色である教員養成スタンダードの5領域「学び続ける教師，教師としての基本的素養，子ども理解に基づく学級経営・生徒指導，教科等の指導，連携・協働」を基盤とした内容としており，教師に求められる資質・能力を確実に修得いただく内容となっています。

教員免許状更新講習	教員採用試験・教職サポート講習
① 〈全校種（特に小中）〉 バランス型 ② 〈小〉 授業力アップ型 ③ 〈小〉 新しい時代の授業づくり型 ④ 〈小〉 多様な子ども理解型 ⑤ 〈中高〉 生徒指導・生徒理解型 ⑥ 〈幼〉 幼稚園特化型 ⑦ 〈全校種〉 特別支援教育重点型	① ベーシック ② プラクティス ③ アドバンス
①～⑦の一つを選択し受講（必須）	①は必須。②③は希望者のみ受講可能

3 受講資格

次の条件を全て満たす方を対象とします。

- ① 次のいずれかに該当する教員免許状を所有している方
 - A. 修了確認期限又は有効期間満了日が令和4年3月31日までの教員免許状
 - B. 既に修了確認期限が過ぎた教員免許状
- ② 本プログラム受講後に，教員採用試験を受験又は臨時的任用リストへ登録するなど教員として勤務する意思のあること（教職未経験者又は教員経験はあるものの学校現場から長く離れている方）
- ③ WEB カメラ・マイクを使用できる PC・ネットワーク環境があること

4 募集人数

100人（先着順）

5 受講料

48,000円（免許更新1パッケージ5講習+教員採用試験・教職サポート講習3講習）
ただし、以下の条件を満たす方は、受講料を減額し、30,000円となります。

【減額対象者】

プログラムの受講前に教員採用試験の受験や臨時的任用リストへの登録など学校現場で勤務する意思があることを書面により確認でき、かつ以下の2つの要件に該当する方は、受講料が減額されます。

- ① 令和2年12月31日時点（基準日）において、35歳以上55歳未満の方
- ② 基準日から起算して過去1年間正社員として雇用されていない方、かつ、基準日から起算して直近5年間に正社員としての雇用期間が通算一年以下の方や、概ね一年以上の間に臨時的・短期的な就業を繰り返すあるいは臨時的・短期的な就業と失業状態を繰り返すなど不安定就労の期間が長い方、非正規雇用の就業経験が多いあるいは就職後の就業期間が短いなど安定した就労の経験が乏しい方

6 申込受付期間

令和2年11月16日（月）13:00～令和2年11月20日（金）17:00

7 申込方法

申し込みはweb申込みのみとなります。

専用webフォームは11月中旬に以下のホームページへ掲載予定です。

<URL>https://www.hyogo-u.ac.jp/about/gp/recurrent_program.php

（TOP>大学紹介>GP事業関係>就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業のご案内）

8 事前相談会

プログラムの申込前に、受講者からの相談に応じるオンライン（ZOOM）による事前相談会を開催します。

希望者は、令和2年11月2日（月）9:00～11月6日（金）17:00までにメールにより申込みください。（期間外のメールは受理いたしません。）

申込みメールアドレス：kykk-recurrent-q@ml.hyogo-u.ac.jp

事前相談会開催日：令和2年11月15日（日）

9 申込・受講の流れ

受講者

兵庫教育大学

- ①事前相談会への申込み（希望者のみ）11/2(月)～11/6(金)メール送信
- ②事前相談会への申込受理（11/10(火)に相談会時間のメール送信）
- ③事前相談会受講 11/15(日)
- ④プログラム受講申込み（11/16(月)～11/20(金)web 申込み）
- ⑤教員養成スタンダードに基づく自己評価用紙の送付（11/24(火)メール送信）
- ⑥教員養成スタンダードに基づく自己評価の実施（11/30(月)までに）
- ⑦申込済みパッケージの変更受付期間（11/25(水)～12/1(火)までにメール送信）
- ⑧受講料の振込依頼書を送付
- ⑨受講料納入期限（12/16(水)） ※受講料の支払いをもって受講決定となります
- ⑩受講決定通知の送付（12/20 前後）
- ⑪免許更新・ベーシックの受講（1/5(火)～1/22(金)）
- ⑫プラクティス・アドバンスの追加申込み期間（1/23(土)～1/29(金)までにメール送信）
- ⑬プラクティスの受講（2/7(日)） ※申込者のみ
- ⑭アドバンスの受講（3/7(日)） ※申込者のみ
- ⑮免許更新に係る履修認定証明書の送付（3/10 前後）

(1) 免許状更新講習

必修領域1講座，選択必修領域1講座，選択領域3講座を一つのパッケージ（合計30時間）として7種類のパッケージを開設します。

※パッケージの〈 〉は主な対象の学校種を示しています。〈 〉以外の学校種の免許状更新講習としても受講していただけます。ただし、「②〈小〉授業力アップ型」は小学校のみ、「⑥〈幼〉幼稚園特化型」は幼稚園のみの開講となります。

① 〈全校種（特に小中）〉バランス型

区分	講習名	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情－学校知の再構成－	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領（総論・総則）	押田 貴久
選択領域	外国人児童生徒等教育の基礎－多文化共生のための学校・教室づくり	岡崎 渉
	参加型学習により子どもたちの意思決定，目標設定の力を育てる：ライフスキルの視点から	西岡 伸紀
	子どもに対する教師の見方をふりかえる－学級経営の充実のために－	秋光 恵子

② 〈小〉授業力アップ型

区分	講習名	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情－学校知の再構成－	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領（総論・総則）	押田 貴久
選択領域	力のつく，楽しい説明的文章の授業づくり	吉川 芳則
	小学校音楽科における打楽器の特性を生かした合奏指導の工夫	河邊 昭子
	気になる行動を示す発達障害児に対する問題解決支援！	岡村 章司 井澤 信三

③ 〈小〉新しい時代の授業づくり型（主な教科：道徳科，国語科，外国語科）

区分	講習名	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情－学校知の再構成－	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	道徳科の時代の道徳教育・道徳授業の在り方と効果的な指導法の実際	淀澤 勝治
選択領域	メディアを活用した国語科授業について考える	羽田 潤
	簡単なICT教材の授業活用－英語表現を用いて－	川崎 由花 澤山 郁夫
	ALTとのチーム・ティーチングで行う小学校外国語活動・外国語科の授業づくり	和田あずさ GRADY CLARE ELIZABETH

④ 〈小〉多様な子ども理解型

区分	講習名	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情－学校知の再構成－	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領（総論・総則）	押田 貴久
選択領域	子どもに対する教師の見方をふりかえる－学級経営の充実のために－	秋光 恵子
	外国人児童生徒等教育の基礎－多文化共生のための学校・教室づくり	岡崎 涉
	気になる行動を示す発達障害児に対する問題解決支援！	岡村 章司 井澤 信三

⑤ 〈中高〉生徒指導・生徒理解型

区分	講習名	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情－学校知の再構成－	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	持続可能な部活動の指導と運営を考える	森田 啓之 有山 篤利
選択領域	子どもに対する教師の見方をふりかえる－学級経営の充実のために－	秋光 恵子
	外国人児童生徒等教育の基礎－多文化共生のための学校・教室づくり	岡崎 涉
	参加型学習により子どもたちの意思決定，目標設定の力を育てる：ライフスキルの視点から	西岡 伸紀

⑥ 〈幼〉幼稚園特化型

区分	講習名	担当教員
必修領域	社会・子どもの変化と教育の課題	鈴木 正敏 小川 修史
選択必修領域	新しい幼稚園教育要領と子どもに培う資質能力	鈴木 正敏
選択領域	気になる行動を示す発達障害児に対する問題解決支援！	岡村 章司 井澤 信三
	主体的に学ぶ子どもたちを育てる保育を目指して	鈴木 正敏
	カンタン指揮法！～リコーダー合奏とともに～	河内 勇

⑦ 〈全校種〉特別支援教育重点型

区分	講習名	担当教員
必修領域	学校づくりに活かす教育の最新事情－学校知の再構成－	安藤 福光 坂口 真康 山本 真也 山中 一英
選択必修領域	近年の教育政策の動向と新しい学習指導要領（総論・総則）	押田 貴久
選択領域	気になる行動を示す発達障害児に対する問題解決支援！	岡村 章司 井澤 信三
	特別支援教育基礎論（教育課程と自立活動の理解）	内海友加利
	肢体不自由児の教育課程・指導法	石倉 健二

(2) 教員採用試験・教職サポート講習

教員採用試験の準備とともに、学校現場で勤務するために必要な知識・スキル習得のサポートを行うため、ベーシック（必須）・プラクティス（任意）・アドバンス（任意）の3つの講習を開設します。概要は以下のとおりです。

※プラクティス、アドバンスの受講は任意ですが、事前に受講申込が必要です。なお、アドバンスのみの受講申込はできません。

①ベーシック〔必須：3時間〕（開設方法：オンライン）

教員採用試験で課される試験の種類や各試験の対策方法について、解説します。
「筆記試験」「小論文」「面接試験（個人・集団面接、場面指導）」「模擬授業」等

②プラクティス〔任意：2時間〕（開設方法：対面（神戸ハーバーランドキャンパスを予定））

場面指導や模擬授業等についての講義やグループ演習を通して、教員採用試験対策だけではなく、教員として必要なスキルも学びます。なお、都合で参加できない受講生は、一部をオンライン（同期）で視聴することができます。視聴にはプラクティス受講の申込が必要です。

③アドバンス〔任意：2時間〕（開設方法：対面（神戸ハーバーランドキャンパスを予定））

プラクティスで学んだことをさらに経験を積んでいただきます。オンライン（同期）による配信はありません。

11 問い合わせ先

兵庫教育大学教員養成・研修高度化センター

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

TEL 0795-44-2421 (平日 9:00~17:00)

E-mail: kykk-recurrent-q@ml.hyogo-u.ac.jp

URL: https://www.hyogo-u.ac.jp/about/gp/recurrent_program.php

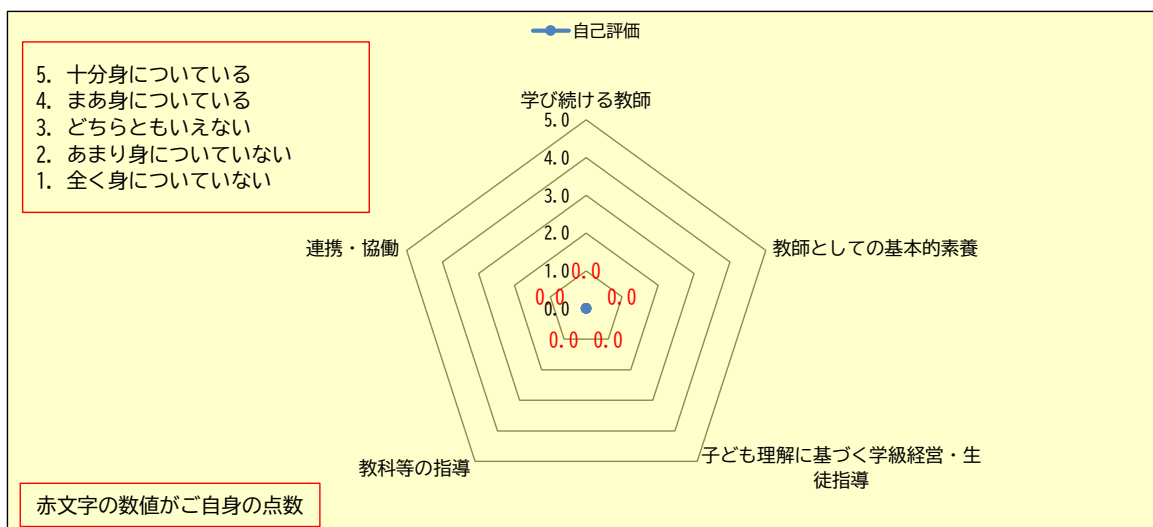
教員養成スタンダードを用いた自己分析

自己評価の仕方…5段階を自分で埋める
 5. 十分身についている
 4. まあ身についている
 3. どちらともいえない
 2. あまり身についていない
 1. 全く身についていない

【使用方法】

- ① 下記の24項目について、自己評価欄に5段階で数値を入力してください。
- ② 24項目の入力が終了すれば、シート下部に大項目（5項目）についてグラフ化されます。

大項目	中項目	No.	小項目	自己評価
学び続ける教師	省察的实践	1	常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる	
	研究を通じた専門性向上	2	研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる	
	長期的視野に立つ職能成長	3	長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる	
教師としての基本的素養	教師としての素養	4	社会人として、仕事や生活を行うことができる 具体例：言葉遣いやマナーなどを身につけている、集団の中で活動できる、日々の健康管理ができる、社会問題に関心を持っている	
		5	教師としての使命感を持ち、教育の理念や思想、教師の役割について理解している	
		6	教育に関する社会的・制度的事項や、教育課程の編成について理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる	
		7	子どもに対してわかりやすい言葉づかいで接したり、安全に配慮したりして子どもたちに関わることができる	
		8	自らが学校組織の一員であることを理解し、他の教師への相談や話し合いを適切に行うことができる	
子ども理解に基づく学級経営・生徒指導	子ども理解	9	主な情報通信機器（ICT）の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる	
		10	特別支援教育に関する基礎的知識を持つとともに、子ども一人ひとりの発達や心身の状況、生活環境を多面的にとらえることができる	
	学級経営	11	子どもたちの人権を尊重し、公平で受容的・共感的な態度で接することができる	
		12	子ども同士の関係や仲間集団を把握し、子どもたちにあった環境を整備するなど指導に活かすことができる	
	生徒指導	13	学級担任の役割と職務内容を知っており、学級経営案を作成することができる	
14		基本的な生活習慣や、規則や決まりを守ることの大切さについて指導することができる		
15		キャリア教育の意義を理解するとともに、問題行動を含めた個々の子どもの行動の背景を多面的にとらえることができ、教育相談などの方法を用いることができる		
教科等の指導	内容理解	16	学習内容の系統性及び各学年間のつながりを知っており、かつ各教科の専門的な知識を持っている	
		17	教材を解釈したり、子どもの実態や地域の特色に合わせたりして、教材・教具をつくることができる	
	授業方法・指導技術	18	主な指導方法の長所と短所を理解したうえで、各教科の内容に即した指導ができる	
		19	板書、発問などの指導技術を身につけるとともに、子どもたちの学習状況や発言に配慮し、個別指導や協同学習など柔軟な授業展開ができる	
	授業計画（授業研究）	20	授業研究に積極的に取り組み、年間指導計画を単元や授業に反映させ、子どもの実態を踏まえて学習指導案をつくることができる	
学習評価	21	子どもの学習を適切に評価し、学習指導に活かすことができる		
連携・協働	他の教師との連携・協働	22	子どもに関わる情報を他の教師と共有するなど、様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている	
	保護者・地域等との連携・協働	23	学校と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している	
		24	保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている	



就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業

更新講習型プログラム委託事業成果報告書

2021年3月

兵庫教育大学

〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1